

トルコ マンダリンは豊作で需要も安定

[FreshFruitPortal](#) 2025年10月23日

トルコのマンダリン業界では、今シーズンは豊作と風味の向上、さらに早期の需要が、絶妙なタイミングで重なったと報告されており、「酸っぱくない」甘い展開となっている。輸出企業のエレン社によると、好天と順調な開花により収量が40～50%増加し、果実の甘さ、香り、皮の剥きやすさが、欧州及び中東の輸入業者らの支持を集めている。

同社のマーケティング部門の幹部であるウメル・ファルク氏は FreshFruitPortal.com(本サイト)に対し、「品質は安定しており、出荷率も高い。欧州から早期に引き合いがあり、安定したペースで続いている。今年は、収量、品質、タイミングの面で最もバランスの取れたシーズンの1つとなっており、生産者も輸出業者も効率的な計画を立てやすくなっている」と述べた。(以下「」は同氏の話)

美味しい成果(味も利益も)：好天が果実の品質と収量を押し上げ

同氏は、収量の増加と安定した品質は、穏やかな春と夏の早期到来によるものであると説明する。さらに、同社は害虫の発生も最小限であったと報告している。「味はより甘く、香り豊かで、皮は滑らかで剥きやすい。病害虫の少なさも出荷率の向上に寄与している。地域によって果実のサイズに若干の違いはあるが、輸出品の全体的な品質は非常に均一である。」同社と生産者との緊密な連携が、収穫時期と出荷の一貫性の維持に役立ったと同氏は付け加えた。

トルコの早い時期の主要な輸出品目であるウンシュウミカン、EU、東欧、バルカン半島及び中東市場で引き続き高い人気を誇っている。「バイヤーは甘さ、剥きやすさ、自然な色合いを一層重視している。トルコ産のマンダリン、特にウンシュウミカン、過度な収穫後処理を施すことなくこれらの期待に応えられる。」同氏はまた、今年はスペイン産マンダリンに対する期待が低いため、トルコ産への関心が高まっていると述べた。

為替の変動及び市場動向に対応し、出荷シーズン開始当初の価格は昨年比で約35～40%低かった。しかし同氏は、これが早期の需要と競争力の確保につながったとして、「収量の増加により、生産者は単価が低くても収益性を維持することができた」と述べている。

迅速な出荷：競争的な環境下で物流の優位性を活用

同国が主要市場に近接していることから、世界的な海上輸送の混乱が続く中でもトルコ産柑橘類の輸出においては遅延が最小限に抑えられていると同社は報告している。「メルシン港及びイスケンデルン港からの出荷は、シーズン初期に若干の遅れがあったものの、概ね順調に進んだ。」

同社はまた、自社内の物流システム及びパートナー企業とのネットワークが、ボトルネックの回避に貢献していると説明する。「欧州への輸送時間が短いため、柔軟な出荷計画が可能となり、着荷時の果実の状態も良くなる。これらの要因が、トルコ産柑橘類に対するバイヤーの信頼を支えている。」

10月中旬時点で、早生品種のプリモソルと土橋紅が出荷を開始しており、他のウンシュウミカンも間もなく出荷される予定である。シーズン後半の品種としては、ダブルマーコットとノバが春まで輸出を継続する見込みである。「今年のダブルマーコットの品質は非常に良好であり、地域によって収量に若干の差はあるものの、大きな不足は見られない。健全な供給量とそれに見合う需要により、市場価格は引き続き安定するものと予想される。」

今後を見据え、同社の戦略は、安定した供給と一貫した品質の維持に重点を置いている。「組織的な計画、経験豊富な生産者、そして一貫した現場管理により、弊社のような信頼できる輸出業者が牽引するトルコのマンダリン業界は自信を持って前進している。すべての兆候が、今年は非常に成功が期待される有望なシーズンになることを示している。」

執筆者：カルラ・エスピノーサ・グティエレス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)